

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	学習内容は全体的に定着している。平仮名の読み書きはほとんどの児童が身に付いているが、拗音・促音・長音や、「は」「へ」「を」の使い方を誤る児童が数名いる。また、文を書くときに句読点を抜かしてしまう児童もいる。鉛筆の持ち方や平仮名の正しい書き順が定着していない児童もいるため、家庭の協力も必要である。	間違い探しの問題等を繰り返し行い、拗音・促音・長音や「は」「へ」「を」の使い方を定着させていく。週に1度図書室へ行ったり読み聞かせを行ったりすることで、本を読む楽しさを味わわせるとともに、語彙を増やす機会を設ける。また、文を書くことに慣れていない児童が多数いるため、教科書の文を視写する時間を増やすことで、文の書き方や言葉のきまり等を身に付けさせる。	家庭学習の音読練習を継続して行い、文の構成や正しい言葉のきまり等を身に付けさせる。また、日記や行事作文等で書いた文章を互いに読み合う活動を行い、文を書く力や言葉のきまりを身に付けさせるとともに、自分の思いや考えを表現する力を高めていく。
2年	「文しょうをかく」「書くこと」の正答率が他の項目に比べて低い。「は」「へ」「を」などの助詞の使い方や句読点の打ち方などを理解していない児童がいる。また、書くこと自体に苦手意識が強く、書き始められない児童や、問題文の読み取りが不十分で、問題の意図に沿った文にならず不正解になる児童がいる。「書くこと」以外にも、説明文を読み取る事に関しても課題が見られる。	ノートやプリントの書き方は、書画カメラを活用したり、例文を示したりして確認していく。進められない児童に関しては、個別で対応し、自分の考えを言葉で表現できるように支援する。書き方に関しては具体的に示す。また、ノートに自分の考えを書く時間を十分確保し、友達同士で交流する時間を多く設ける。また書いた文章については、教師が肯定的な評価を書き入れ、児童が文章を書くことに対して自信をもてるようにする。	友達との交流では、読み合うだけでなく読んだ文章について考えたことを相手に文章や言葉で伝えられるようにする。その後、加除訂正する時間を設けたり、振り返りの時間を設けたりし、自分の文章を見直す時間を意図的に作る。また、ノートコンテスト等で手本となる書き表し方をしている児童を取り上げる。
3年	領域別に見ると「書くこと」については、他の事項と比べて低い正答率となった。文章を書く際に簡単な構成を考えたり語や文の続き方に注意しながら文章を書いたりすることに課題がある。また、漢字を使って書くことにも課題が見られる。	文章を書く学習では、題材に対してモデルとなる作文を提示し、良いところを児童が具体的に理解できるようにする。実際に書く場面では、常に相手意識・目的意識をもたせる指導をする。また、はじめ、中、終わりという文章の組み立てを意識させたり、段落相互の関係に注意したりするために構成メモを活用していく。	月曜朝会後の講話について自分の考えを書く活動を継続する中で、出来上がった文章を複数の友達と読み合い、友達の良いところについて伝え合う活動を取り入れる。また、考えがよく伝わる文章については、全体で取り上げ、自分の文章に取り入れることができるようにし、学級全体で書く力を高めていく。
4年	説明文の文中の情報を捉え要約して記述する問題と、物語の登場人物の気持ちを読み取る問題の正答率が低い。「書くこと」については、無回答が多く、最後の問題のため時間的に間に合わなかった児童も一定数いたと考えられるが、取り組んだ児童も指定された長さで書くことや、指定された分量と2段階構成で文章を書くことの正答率が低い。	物語の内容や登場人物の気持ちを読み取る学習では、場面の様子を叙述に即して捉えることが課題であるため、場面の様子を表す言葉にサイドラインを引かせ、そこから読み取れることを話し合うことを通して場面の様子や気持ちを叙述から捉える力を高める。また、文章を書く際には、書く分量や段落について指導をして、自分の考えを文章にまとめる活動をしていく。	月曜朝会後の講話を要約したり、自分の考えを書く活動を継続する中で、書く分量や文章のまとまり等の段落を意識して書けるように指導していく。また、朝読書の時間の確保と学級で本の紹介を進め、意欲的に読書に取り組めるようにしていく。
5年	全体的に、目標値、北区の平均値ともに上回っており、概ね学習内容が定着している。しかし、内容別に見ると、「連用修飾語の理解」についての正答率が低い。「言葉の学習」をする際には、様々な言葉や文に触れさせる指導をすることで語彙や表現の仕方を身に付けさせる必要がある。	漢字の学習については、新出漢字だけでなく、既習の漢字についても復習する時間を設け定着を図る。言葉の学習は、既習事項を生かして文章を書く活動を重点的に取り組み、書いた文章を読み合うことで表現をより豊かにさせる。	読書活動のより一層の充実を図り、「読むこと」だけでなく「書くこと」「言語についての知識理解」の定着度向上につなげていけるようにする。漢字については、他教科でも、既習の漢字は確実に書かせるようにする。
6年	全体的にみると、目標値、北区の平均値ともに上回っており、概ね学習内容が定着している。しかし、問題の内容を分析すると、「資料から読み取ったことをそれぞれ書く」の記述の問題で目標値より6ポイントほど下がっていた。	レポートや新聞作りの学習では、「事実」と「意見」を区別して書く指導を徹底していく。また、書く力の能力向上も図っていく上で、日頃から短作文で自分自身のことを文章で書き表す力を高めていく。	NIE活動を通して、新聞から読み取ったことを短い文で表現する活動をしていく。書く力を高めるために、友達の書いた文章についての助言やアドバイスを伝え、交流し合う。友達の文章の良いところを自分の書く文章に取り入れるように指導・助言していく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
----	-----------	-----------	-----------

3年	身近な事柄について、自分たちの生活と関連させ、予想を立てながら学習を進める児童が多く、意欲的に学習に取り組める児童が多い。区役所やスーパーマーケットの見学などを取り入れたため、自分の目で見て確かめる学習ができたことは児童の意欲関心につながっている。しかし、資料から情報を読み取ったり、活用してまとめたりすることに課題がある。	資料を精選し、資料を読み取る経験・指導を継続していく。また、児童が資料から読み取った内容について全体で確認することにより、正しい知識を身に付けさせる。新聞等にまとめる活動を行う際には、具体的な資料と書き方の関連について説明し、見本を提示しながら指導していく。	社会科の学習で取り上げる課題が身近な問題であることに気付かせ、学習した内容について深めたり、興味の幅を広げたりできるよう、単元に関わる写真資料を用意したり見学を計画したりしていく。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

4年	算数でのグラフを読み取る学習を生かし、資料から様々な情報を読み取れる力を身に付けさせることが課題である。そのために、資料や教材の提示方法を工夫する必要がある。また、自分の考えを持つ時間を確保し、地域や行政が抱える様々な問題に対して一人一人が自分事として考えていけるような指導をする。	問題に対して、自分が考えたことをより深めるために、交流する時間を十分に確保する。また、毎時間の終わりに自分の学習を振り返る時間を設け、自分の気付きや高まりなどを書く活動を積み重ねていく。また、児童の振り返りを生かして次の学習を組み立て、児童の意欲につなげる。	社会科の学習が自分の生活とつながりがあることに気付けさせ、興味関心を高める。また、学習を通して更に疑問に思ったことを自主学習で調べてまとめるよう働きかけ、自ら進んで知識を獲得していく学習スタイルを構築させる。
5年	資料から判断する力を高めていく指導が必要である。資料の読み取り方を丁寧に指導し、情報を正確に取り出す能力を高める指導を行っていく。社会科学学習の中で、資料から情報を読み取る活動を積極的に取り入れていく。	児童の身近にある地域教材の資料提示をしていく。資料を読み取る活動では、自分の考えを表現する時間を十分に確保し、なぜそのように考えたのか理由を説明させる場を設け、資料から読み取れる情報を共有することで資料活用の技能を高めていく。	資料を読み取る力が未熟な児童へは個別支援をする。資料を読み取る力と共に社会と結びつけて考える力を付けるために調べ学習を積極的に取り入れていく。児童が興味・関心をもって学び、自分の考えがもてるような学習計画を立てる。
6年	全体的にみると、目標値、北区の平均値ともに上回っており、概ね学習内容が定着している。しかし、社会科用語を問う問題で無回答者が少数いるので、知識の定着に課題が見受けられる。	児童が興味・関心を高め、社会の事象に目を向けられるよう、地域教材を導入の授業などで取り上げる。社会科で学習する用語は、どういった意味があるのか具体的な例を示しながら丁寧に指導することで、社会的事象に対する知識を定着させる。	児童が興味・関心をもって学び、自分の考えがもてるような学習計画を立てる。また、児童にタブレットを用いて復習に取り組みせたり、インターネットで関連する事柄を調べさせたりすることで学習内容のより確実な定着を図る。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 (算数)

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	数の概念や10までのたし算・ひき算は、概ね理解ができている。しかし、10の合成・分解の理解が難しい児童や、指を使って計算し、計算に時間を要する児童が数名いる。また、文章問題では立式につまずき、答えを導き出せない児童や、答えの単位を書き忘れてしまう児童がいる。	授業の導入で10の合成・分解のフラッシュカードを使ったり、計算カードを使ったゲーム等を取り入れたりし、数学的な活動を充実させる。文章問題では、文章内の数字やキーワードを見つけて線を引くことを習慣化させ、問題文を読み取る力や場面を想像する力を身に付けさせる。また、ブロック操作や図を活用することを通してたし算とひき算の意味を理解することができるようにする。	家庭と連携し、計算カードやドリルを用いて反復練習を行う。個別指導が必要な児童に対しては、学級経営支援員や非常勤講師と連携を図り、具体物等を効果的に使用しながら理解を促していく。また、ひらめきノートに様々な解き方や友達が発見した方法等を書けるようにする。
2年	どの内容も目標値を上回っているが、他の項目と比べて「とけい」「かたち」の学習の理解が十分でない児童がいる。また、たし算の文章問題は比較的正確率が高いが、引き算の文章問題においては、読み取って内容を理解することや示された減法の式から適切な文章問題を作ることが苦手な児童が多くみられる。	自分の考えを図や言葉でノートに書き表したり、考えを伝え合ったりする活動を毎時間十分に組み入れる。また、既習事項を確認する時間もしっかり確保する。図形の学習では、具体物を用いて形を動かす活動を多く設定し、形の構成と分解の理解を深める。文章問題では、場面をつかませ、何が問われて、どのようにしたら	家庭とも連携して、ドリルやプリント、学習用タブレットなどで繰り返し学習し、学習内容の確実な定着を図る。補助教員がいる授業の場合は、児童の実態に合わせてより丁寧な個別指導を行う。また、ひらめきノートに様々な解き方や友達が発見した方法等を書けるように指導していく。

		解決できるかの見通しをもたせる。	家庭学習の継続や、個人差を考慮して指導していく。
3年	どの内容も目標値を上回っているが、かけ算九九がまだ定着していない児童やかけ算の意味理解が不足している児童が数名いる。また、文章問題では題意を理解できずに立式につまずき、答えを導き出せない児童や、答えの単位を書き忘れてしまう児童がいる。児童の実態に応じた学習とともに、図や言葉、式を用いて問題を表す学習を積み重ねていく必要がある。	児童の実態に応じて、基礎的な計算を高める時間を授業の最初にとったり、既習事項を確認したりする時間を設定する。また、今までに学習したことを掲示し、確認したり、前出の問題との相違点や同じ点に着目したりすることを通して、既習事項を用いた問題解決につなげられるように指導していく。文章問題は、書かれている内容を図や言葉で表す活動を取り入れて題意を理解できるようにする。	家庭と連携して反復練習を行ったり、個別指導が必要な児童に対しては、学力パワーアップ講師と連携を図り、具体物等を効果的に使用しながら理解を促していくようにする。また、ひらめきノートに自分の考えや自分の思考の過程、友達が発見した方法等を書けるように指導していく。
4年	どの内容も達成状況が高い。今後も主体的に学習に取り組む態度の育成を重点的に指導を行う。課題に対して、既習事項や友達の考えを用いて答えを導き出す学習スタイルが確立してきている。友達に自分の考えを伝える(発表する)面で、難しさを感じている児童がいる。	自力解決の時間の確保に加え、その時間に児童同士で考えを見合う場を必要に応じて設定し、友達の考えを自分の考えに生かし、自分の考えをもてるようにする。小集団検討の時間においては、友達の考えを自分の言葉で再考したり、説明し直したりする活動を通して、「思考力・判断力・表現力等」の向上を図る。	単元の終盤の授業では、単元を通して大切にしたい見方・考え方を再度共有し、補充問題や発展問題に取り組ませる。家庭学習においても、既習事項の課題を計画的に出すことで、その定着度を高めていく。
5年	全体的に既習内容はよく定着している。引き続き、基礎基本の問題に繰り返し取り組み、確実な定着を図る。また、活用力を高めるような発問や問題を学習の中で取り入れる授業を意図的に行っていく。	授業のノートや単元末テストから、児童一人一人のつまずきを把握し、丁寧に指導していく。個人差があるため、少人数指導を生かして個々に合った指導を繰り返す。記述式の問題や応用問題に取り組む時間を確保し、活用力を伸ばしていく。	家庭学習を継続して、計算練習をしていく。授業の最後には、振り返り(学びの手ごたえ)を書き、学んだことを多面的に振り返り、次の指導へつなげられるようにする。個人のレベルに合わせたプリントなども用意し、より多くの問題をこなせるようにする。
6年	全体的に既習内容はよく定着している。しかし、解答形式が記述となっている設問に関する問題では、目標値や全国正答率で上回ったものの、正答率が50%以下で低い。記述式の問題に課題が見受けられる。	集団検討の時間においては、友達の考えを自分の言葉で再考したり、説明し直したりする活動を通して、説明する力の向上を図る。また、自分の考えと比べて聞く力や考えのよさに気付く力の向上を図る。	単元の終末では、単元を通して大切にしたい見方・考え方を再度共有し、補充問題や発展問題に取り組ませ、数学的な見方、考え方を定着させる。家庭学習においても、既習事項の課題を計画的に出すことで、その定着度を高めていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立王子第五小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	初めての理科の学習に関心・意欲が高い児童が多い。予想・実験(観察)・考察・結論という問題解決型の学習の流れが少しずつ身に付いてきている。事象に対する問題を見出すことについては、視点を与えることが必要である。また、予想の根拠や考察を書く際には、個人差がある。	児童に疑問をもたせることができるよう、導入時の課題の提示方法や事象との出会わせ方を工夫する。また、見出した疑問を解決させるために実験方法や結果に対する考察をペアやグループ等で話し合う時間を設定していく。	理科で学習したことを日常生活と関連付け、より興味の幅を広げたり学習内容の理解を深めたりする。そのために、学習を進める中で出てきた児童の疑問を掲示したり、図書館司書と連携してその単元に応じた書籍を学級に置いたり、自主学習で調べてきた児童のノートを紹介したりすることで意欲の向上につなげていく。
4年	実験結果から、性質を見付け出す力に課題が見られる。学習する際に課題解決の流れを大事に指導するとともに、学習課題に対して、自分で分かったことを表現する活動を取り入れ、課題に対しての答えが導き出せるようにする。	身近な自然や科学的な事象について「どうして」「なぜ」という関心をもてるように問題を投げかけるようにし、予想することの重要性を十分に味わわせる。理解している児童だけで学習を進めず、全ての児童が問題について興味をもてるようにする。	教科書に記載されている実験内容だけではなく、更にどのようなことを調べてみたいのか、日常生活とどのようなつながりがあるのか、児童の意見が出るように働きかけを行う。また、タブレットでの調べ学習を取り入れ、自主学習で調べるためのきっかけをつくる。
5年	問題解決型の学習については定着しつつあるが、「考察する」「まとめる」段階における学習指導の工夫が必要であると考えられる。	予想・実験や観察の見通し・結果・考察・結論という学習の流れの中で、「考察」を重点的に指導し、実験の結果から分かることを自分の言葉でまとめさせる時間を十分に確保できるようにしていく。	理科で学習したことを日常生活と関連付けて考えていくようにして、さらに興味や関心を高めていく。授業で学んだことを児童に繰り返し問いかけ、教室掲示を工夫しながら知識や技能を確実に定着させる。

全体的に既習内容はよく定着している。しかし、記述の問題では、目標値や全国正答率で上回ったもの

児童が身近な自然や科学的な事象に興味・関心をもてるように授業の導入を工夫する。実験や観察を通して何を調

教科書に記載されている実験内容だけではなく、学習を通してさらにどのようなことを調べてみたいのか、

6年

の、無回答が一定数いる。記述式の問題に課題が見受けられた。

べているのかを明確にし、結果の見通しも予想させることで児童に問題意識をもたせる。児童が授業で学んだことを生活と結び付けて考えられるように、授業の振り返りも十分に時間の確保をする。

児童の意見が出るように働きかけを行う。また、タブレットを用いて、自分たちの実験や観察の結果を写真や動画に記録し、常時振り返ることができるようにする。